

稼げる資格

2014年6月30日
株式会社 リクルートライフスタイル

2010年度以降、新設資格の特長が大きく変化 「ヒト対ヒト」のコミュニケーション力、対人スキルが問われる時代 ～『稼げる資格』編集部調べ～

株式会社リクルートライフスタイル（本社：東京都千代田区、代表取締役社長：北村吉弘、以下リクルートライフスタイル）が編集する資格情報専門誌『稼げる資格』編集部が、このほど2010年度以降に開始された新しい資格の傾向をまとめましたので、ご報告いたします。

概要

2000年代までの資格は「モノ・カネ・情報」が中心であり、2010年代になると、「ヒト対ヒト」の知識・スキルを測る資格の比重が大きく高まっていることがわかりました。『稼げる資格』編集部では、経済環境の変化に伴い、対人スキルの標準化に対するニーズが表れた結果だと考察しています。

■2010年度以降にスタートした主な資格

※黄色網かけは「ヒト対ヒト」の知識・スキルを問う資格

資格名	開始年度
パソコン技能検定ビジネス実務試験	2010年
CompTIA Strata IT Fundamentals	2010年
Android技術者認定試験	2010年
プロダクトデザイン検定	2010年
Google AdWords 認定資格プログラム	2010年
ウェブ解析士	2010年
調香技術師	2010年
全国観光特産士資格認定制度	2010年
ネットショップ実務士	2010年
コンタクトセンター検定試験(コン検)	2010年
新日本総合整体療術師協会認定整体療術師	2010年
パソコン検定 文書試験/文書・表計算試験	2011年
オープンソースデータベース技術者認定資格(OSS-DB)	2011年
住宅建築コーディネーター	2011年
ピアノ調律技能士	2011年
イオンペット公認カットスキルC級	2011年
トリマー中級(青山ケンネルカレッジ認定)	2011年
相続診断士	2011年
傾聴カアドバイザー(R)	2011年
営業力強化検定(R)	2011年
イヤージュティセラピスト	2011年
美容骨格矯正師	2011年
MGA認定ストレッチングトレーナー	2011年
防災介助士	2011年
ネットマーケティング検定	2012年
動物看護師統一認定試験	2012年
認定ファンレイザー(R)検定試験	2012年
全心連公認プロフェッショナル心理カウンセラー	2012年
ヒップホップダンス基本技能指導士	2012年
日本Webソリューションデザイン協会 Webディレクション検定	2013年
クラリス ウェディングプランナー(WPP資格)	2013年
プライダルフラワーコーディネーター検定試験(BFC検定)	2013年
EAPメンタルヘルスカウンセラー	2013年
国際ホリスティックセラピー協会認定パーソナル・トレーナー	2013年
スイーツ研究員	2013年
飲食店開業ベータシク	2013年
認定病児保育スペシャリスト	2013年
HTML5プロフェッショナル認定試験	2013年

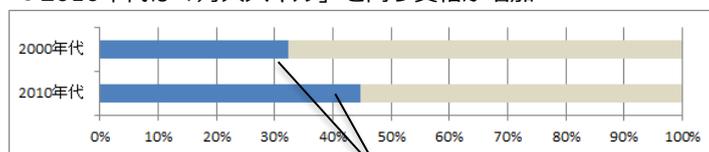
※『稼げる資格』2014年上半期版(右)所収の「資格カタログ」(未経験者がめざすことができる649の資格を掲載)より抽出。



「対人スキル」を問う新設資格が増加

資格には、ビジネスや生活をする上でのコミュニケーションを効率的に進める機能があるため、新しく資格が創設される際には、その時代に社会的に「スキルの標準化」が求められるジャンルや対象が選ばれる可能性が高くなります。したがって、新設資格の傾向を見れば、現在社会でどのようなスキルが求められているかを読み取ることができるのです。

●2010年代は「対人スキル」を問う資格が増加



「対人スキル」を問う資格

(N: 2000年代スタート: 201資格、2010年代スタート: 38資格)
参照データ: 『稼げる資格』2014年上半期版「資格カタログ」

『稼げる資格』2014年上半期版に掲載されている649資格のうち、2010年度以降に新しく創設された資格は左記の38資格です。そのうち4割を越える17資格(表内黄色網かけ)が、ヒト対ヒト、face to faceのコミュニケーションで必要となるスキルを問う資格となっています。

資格といえばこれまで、モノやカネ、近年では情報に関わる知識・技術に関わるものが多くを占めていました。「対人スキル」に関わる資格は、キャリアカウンセリングや心理、福祉などの分野を中心に2000年代から増加し、2010年代にはその傾向がより顕著となりました。新設資格に占める割合は、2000年代は32%でしたが、2010年代にはさらに増加し45%を占めることがわかりました。

『稼げる資格』編集長 乾喜一郎が読み解く、「対人スキル」を問う資格の増加のワケ

近年、日本だけでなく欧米でも話題になっている「残る仕事/なくなる仕事」。そこでも、「残る仕事」として取り上げられているのは、専門的なセラピストや課題発見から取り組むコンサルタントなど、多くがface to faceのコミュニケーションを必要とし、想定外の状況への対応が求められる職種です。ところが、傾聴力やカウンセリング力、コンサルテーション力といった「対人スキル」は短時間の面接などでは測りにくく、また育成も難しいのが実情。この結果は、そうした環境のなか、対人スキルの基準作りや標準化が求められていることの表れと考えられます。

【本件に関するお問い合わせ先】

<https://www.recruit-lifestyle.co.jp/support/press/>